

松江市史講座 二〇一四年三月八日

「武者の世」のはじまりと出雲国

西田友広

一 律令軍制の崩壊

軍団制

二、四郡に一軍団（千人規模、出雲は意宇・神門・熊谷の三軍団）

一戸から兵士一人、百人ごとに十日間ずつ年間六十日勤務

武器自弁 弓一・弓弦袋一・副弦二・征矢五十・胡籥一・大刀一・刀子一・砥石一ほか

「兵士一人を出すとその戸は亡びる」

延暦十一年（七九二） 陸奥・出羽・九州以外の軍団を廃止

健児制

郡司の子弟や有力農民に武器を自弁できる存在

二十〜二百人（出雲は百五人）、国衙の警備などを行う

国家的・統一的軍隊から国ごとの国衙守備兵へ

出身母体は一般農民から一部有力者へ

二 兵（つはもの）の登場

郡司一族・有力農民と国司・中央貴族の一族や関係者が結合・・・富豪層を形成

健児、衛士・舍人など末端武官、相摸人、押領使・追捕使・検非違所官人、受領の郎党

↓武力の担い手へ

在庁官人・郡司・郷司・保司や荘園の下司などへ

三 国衙軍制の成立

富豪層と受領の対立・武力抗争や群盗蜂起

寛平・延喜（八八九〜九二二）の軍制改革

受領の軍事動員権の拡大、押領使・追捕使の設置

出雲では天曆六年（九五二）に設置

国衙軍制

通常の犯罪など 検非違所

大規模反乱など 国司が追捕官符を申請、押領使・追捕使が国内武士を動員

国衙には国内の武士の名簿が存在

四 平正盛の源義親追討

事件の経過

康和四年（一一〇二）十二月二十八日

源義親、隠岐へ配流の決定

康和五年（一一〇三）三月二十八日

義親、隠岐の配所へ

嘉承二年（一一〇七）年六月

義親、出雲へ渡り、出雲守藤原保家の目代などを殺害し、官物などを奪う

同年十二月十九日

因幡守平正盛に義親追討が命じられ、正盛が出京

嘉承三年（一一〇八）正月六日

正盛、出雲に着く

同年正月十九日

義親追討の報告が京都に届く

同年正月二十九日

正盛、入京

義親の行動と背景

目代ならびに郎従七人を殺害、調・庸物等を推し取る

「蜘蛛の岩屋」⇨雲津浦に「城」を構えて立て籠もる

「近境国々人民」の中に「同意輩」

追討され首を切られた者が十二人

出雲守は藤原家保、父家範は白河院の子堀河天皇の乳母夫、兄基隆も白河院の

近臣

嘉承二年は家保の出雲守最終年

正盛の立場

受領の郎党として検非違所・御厩別当などとなる

嘉保元年（一〇九四）頃から隠岐守・若狭守・若狭守（重任）を経て嘉承元年

（一一〇六）年に因幡守

白河院の近臣（北面）

直属の兵力として二百四・五十人

追捕官符により五カ国（出雲・因幡・伯耆・隠岐、石見または備後）の武士の

動員権

因幡・伯耆で軍勢を動員して出雲入りし、出雲の軍勢を合わせて義親を攻撃か

五 出雲の武士とそのネットワーク

出雲の武士

押領使・清滝静平

天曆六年（九五二）に任命

「暴悪の輩」や「賦税の民」が「恣に党類を集め、ややもすれば人の物を奪う」

相撲人・出雲盛利

長徳三年（九九七）に所見

相撲人 諸国に派遣された相撲使が、相撲の達者や剛力の者を選抜・京進

相撲の故実を伝え、譜代の相撲人の家も

近衛Ⅱ近衛舍人（近衛府の最下級の職）に任官

義親追討と武士

嘉承二・三年（一一〇六・七）

義親に与する武士／国衙軍制の下で追討に当たる武士

久木新大夫

仁平三年（一一五三）十一月

鰐淵寺僧唯乗房と万田莊を争い、伊之谷（伊努谷）で合戦の末、鰐淵寺を焼き払う。

源義憲（義広とも。源為義の子）と繋がり

伯耆国での合戦への参加

嘉応二年（一一七〇）

大山寺南光院別当明俊への加勢

寿永元年（一一八二）

伯耆国の武士村尾成盛と小嶋基保との合戦に参加

村尾・小嶋両氏は伯耆国の東西に並び立つ有力武士

一谷合戦に平家方として参陣した武士

元暦元年（一一八四）二月

塩屋（塩冶）大夫・多久七郎・朝山・木次次郎兄弟・三代・横田惟行（惟澄

とも、兵衛尉）・富田押領使

在庁官人

建久五年（一一九四）連署解状

勝部氏・出雲氏・中原氏

秋鹿郷司・伊野郷司・山代郷司・法吉郷司などを兼任

武士のネットワーク

近隣諸国の武士とのネットワーク

伯耆国の勢力との関係

嘉応二年（一一七〇）

大山寺南光院別当明俊への加勢

寿永元年（一一八二）

村尾成盛と小嶋基保との合戦に参加

押領使清滝氏と石見益田氏

益田兼栄の娘、益田兼高の姉または妹が、清滝静基の妻

益田兼高は権介を名乗る在庁官人で石見国押領使にも任じられたとされる

清滝静基は押領使清滝静平の子孫と考えられる

清滝静基Ⅱ富田押領使の可能性も

中央の武士とのネットワーク

久木新大夫と源義憲

平氏家人となる武士

京都大番役が媒介

一谷合戦への参加

近隣諸国の武士、都の武士とのネットワークが存在

参考文献（一般向けの主なもの）

下向井龍彦『武士の成長と院政』（講談社学術文庫、二〇〇九、初出は二〇〇一）

高橋昌明『増補改訂 清盛以前』（平凡社ライブラリー、二〇一一、初出は一九八四）